

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

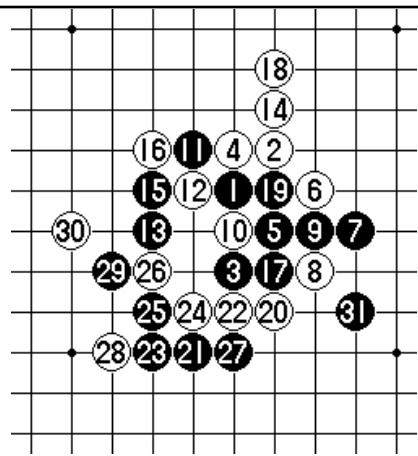
### ● 第3回 ●

#### 懸案事項解決

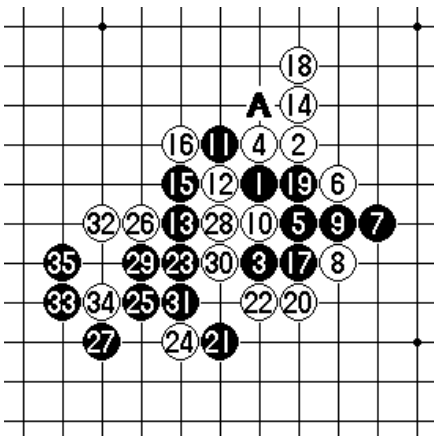
明星でここ数年頭を悩ましていた懸案事項がある。今回はそれについてようやく結論が出たようなので、ここでまとめてみる。

#### ○経緯

この形を最初に見たのは、確か名人戦関西地区予選で相楽八段が打った棋譜だったように思う。これは直接私も見ていたので印象深い。白18が一路上だったかは

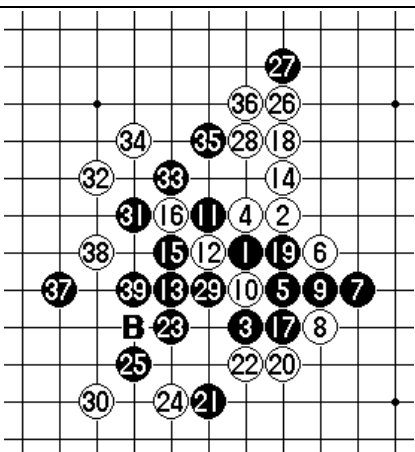


記憶がないが、黒31に含んで「ほく、こうやって勝つか」といたく感心した。しかし局後、白28を反対で勝ちがないと聞き、「じゃあどうやって勝つんだろう？」と思ったが、「絶対代替案があるよな」とも感じていた。(この31でも勝ちがないらしい)



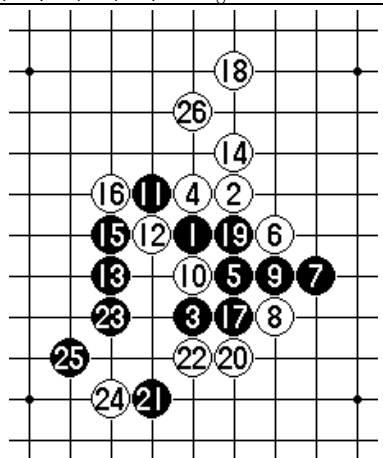
次に出てきたのがこの23で、対する白24はここが最強と、黒25と四迫いを含まれると、部分的には受けがない。黒としては白Aに

石が入ると四迫いが発生するので、それだけに気をつけなければい。これで解決か、と思いきやノリ手があることが判明。

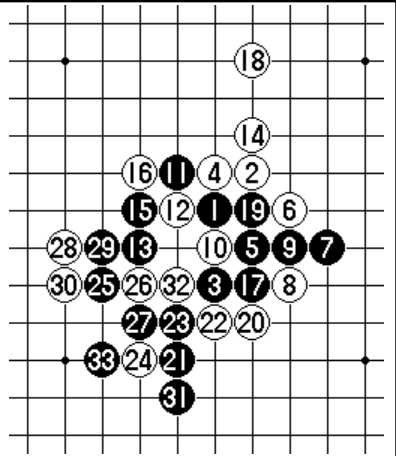


白26、28がそれだが、黒29、31、Bの縦の四迫いをノッている。しかし、今度は別の四迫いが発生する。

これは黒27に黒石が入ったためであり、この石を使われて別の四迫いが発生した。そうすると白18が26のトビ三であればこの四を打つ必要がなく、白18ではトビ三の方が強防ということになる。

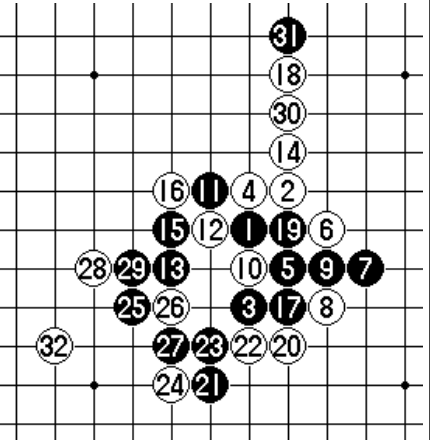


こうした研究を高川さんと前からしていたが、そのうち吉澤さんが「連珠道」で黒の追い詰めを問題として提案し、それが追い詰めなしということに私の指摘で修正された。そうこうするうちに、連珠世界で岡部君が書き、ついに追い詰め問題にまでなった。しかし、結果はご存知の通り「追い詰めなし」であった。このように多くの人を感わすのも、いかに勝てそうであるところでも勝てない、という非常に難解な防ぎがあるからである。この防ぎを研究しよう。



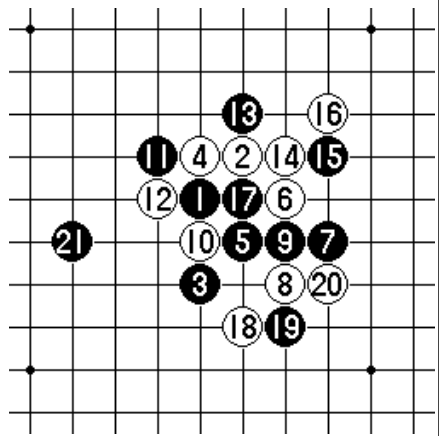
まず、打ちかえるのなら黒23は非常に有力な所である。ここでも白24が最強。そこで黒25とミセ、白26を待つて黒27と引けば白28が絶対で、黒29と引き白上止めがないので、ようやく勝ちになったと誰もが思うのである。

そこで誰もが気がつかない、白30、32の防ぎがある。ここで夏止めをする意味が何にあるのかと言うと、後の黒35の時白36から止められるのである。ただ一点であるが、それが強くて困る。下辺は盤端が近く、上辺は白の勢力があるので、



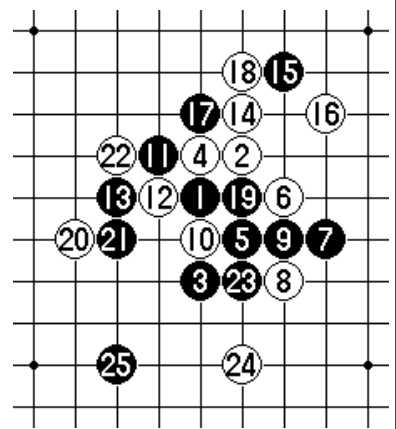
勝ちに至らない。もちろん、上辺の白は防げない。(呼手も打てない)

○結論  
この形は黒勝ちがなく白打ちかえる必要がある。で、世界ではもう代替案の研究が進んでいる。まず真つ先に考えられるのが黒13と反対から押さえる手で、まずは自然な発想であろう。対して白14はほぼ絶対で、黒15でまた考えさせられる。16からの引き出しに備えて15に止めておくのが普通だが、16に打つのもあろう。



あるいは手を抜く手、牽制する手もあるかもしれない。以下の展開で一例として黒21までを示したが、黒13の手自体がちよつと混戦志向なので、ここで勝ちを見つけるのは難しいかも。でも実戦的には有力だろう。今回の世界戦でもシニョフが打っていたが、白で防ぎきっている。(シニョフとは既に2年前にこの形をEメール戦で打っていた)

また、吉澤さんは、別の黒13を示している。黒13と打ち、白14と引かせる発想は非凡だが、これ



は以下呼手がからむので防ぎのバリエーションが多く、調べるのが難しい。しかし、吉澤さんならではの数百図に及ぶ研究があるので、おそらく勝ちを証明されることだろう。一例を示すと、白16の防ぎに対し黒17から19と休んで、白は防ぎづらい。黒25まで展開できればあとは容易だろう。

数年にも及ぶ論争、研究の末に勝ちなしとわかったこの白12は連珠の難しさを端的に示している。世界ではルール改正を訴える声も大きいですが、まだまだ現行ルールでいけそう。